

# 株主の皆さまへ

## 第95期中間報告書

(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)

**東芝機械株式会社**  
Best Partner of Leading Industries

証券コード：6104

## 株主の皆さまへ



株主の皆さまには、平素よりご高配を賜わり、心よりお礼申し上げます。

ここに、株主の皆さまへ（第95期中間報告書）をお届けするにあたり、ひと言ごあいさつ申し上げます。

取締役社長 三上高弘

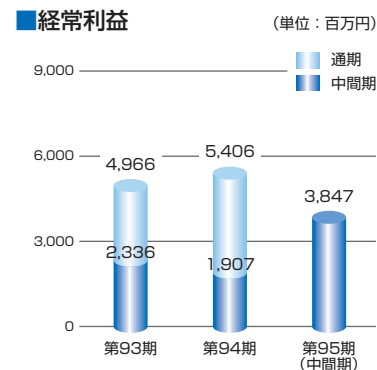
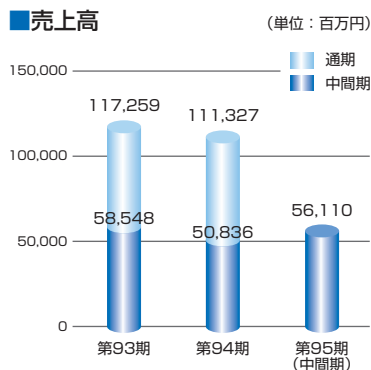
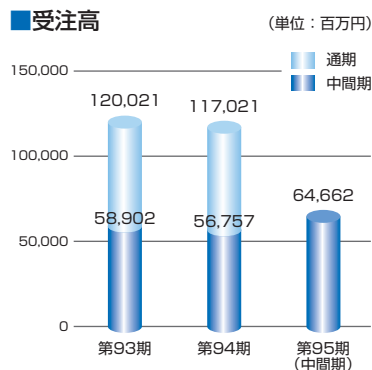
### 当第2四半期の状況と業績

当第2四半期連結累計期間における国内の景気は、政府の経済政策や輸出の増加等により企業収益や雇用情勢の改善が継続するなど緩やかな回復基調で推移いたしました。海外の景気は、欧米経済が堅調に推移、中国・東南アジア経済が改善傾向を示すなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、地政学リスクや欧米の政策転換等により不確実性が高まるなど、世界経済は先行き不透明な状態が続いております。

当社グループが属する機械業界につきましても、国内の設備投資は緩やかながら回復傾向を示しているものの、海外は対象とする市場や製品により景況感に差異が生じております。

このような経済環境のもとで、当社グループは中期経営計画「TM-PΣ Plan」(Toshiba Machine Profit Sigma Plan)を平成28年4月1日からスタートさせ、これまでの「先進と拡張」の考えを継承しつつ、新たに

### 業績ハイライト



「高収益体質への変革」と「選択と集中」を基本方針といたしました。今後成長が見込めるグローバル市場において、当社グループが着実に成長していくための諸施策として、総原価の低減、収益性改善に向けた生産革新活動、グローバルな最適調達網の構築、新市場の開拓、国内外の注力市場に向けた新商品の開発、受注の拡大等に全力をあげ、取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、当社が注力する中国、北米、東南アジアの市場回復により、561億1千万円（前年同期比10.4%増）となりました。損益につきましては、原価低減の諸施策による成形機セグメントを中心とした利益改善が継続した結果、営業利益は17億6千2百万円（前年同期比23.3%増）、経常利益は、受取解約金や為替差益による営業外収益の増加により、38億4千7百万円（前年同期比101.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、28億7百万円（前年同期比103.1%増）となりました。

## 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行なった結果、平成29年5月10日公表の予想を修正いたしました。詳細は、平成29年11

月7日に公表いたしました「平成30年3月期第2四半期累計期間の業績予想数値と実績値の差異および通期業績予想の修正、営業外収益（受取解約金）の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

## 配当について

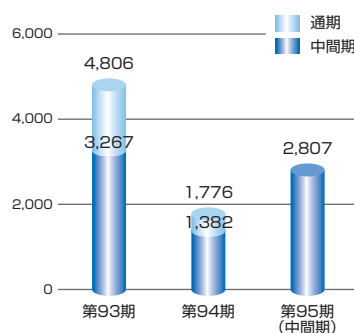
当社は、収益性の向上に向けて経営体質の強化を図りながら、安定配当を維持し、業績に応じた利益配分をしていくことを基本方針としております。

当第2四半期末の配当金につきましては、当第2四半期までの業績ならびに今後の事業展開を勘案し、平成29年5月10日に公表しました前回予想から1円増額し、1株当たり7円とさせていただきますことにいたしました。また、期末配当金の予想につきましても、前回予想から1円増額し、1株当たり7円に修正いたしました。これにより、当期の年間配当金は、1株当たり14円となり、前期（平成29年3月期）実績から2円増配の予定です。

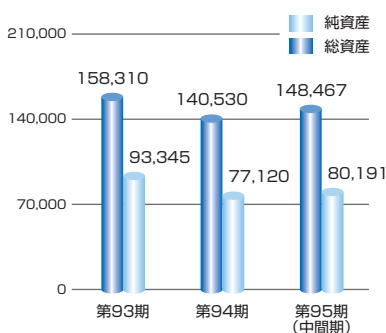
株主の皆さまにおかれましては、何卒いっそうのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年12月

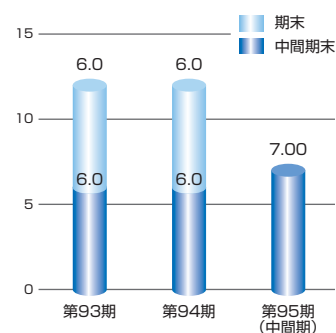
■親会社株主に帰属する四半期純利益（単位：百万円）



■総資産／純資産



■1株当たり配当金



## 事業別の概況

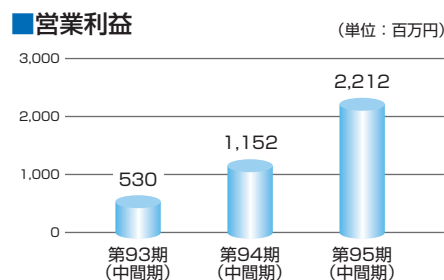
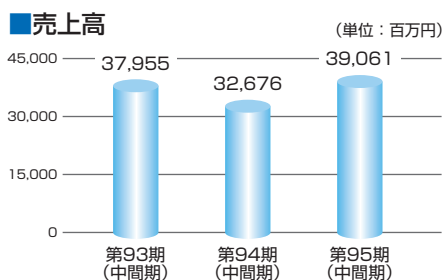
### 成形機事業（射出成形機、ダイカストマシン、押出成形機など）

射出成形機は、国内、北米、中国、インドの自動車向けを中心に販売と受注が堅調に推移いたしました。

自動車、二輪車関連業界向けを主な供給先とするダイカストマシンは、国内、台湾、中国、東南アジアおよびインドの需要回復を受けて、販売と受注が増加いたしました。

押出成形機は、中国の二次電池向けシート・フィルム製造装置の需要拡大の継続を受けて、販売と受注が堅調に推移いたしました。

この結果、成形機事業全体の売上高は、390億6千1百万円（前年同期比19.5%増）、営業利益は、22億1千2百万円（前年同期比92.0%増）となりました。

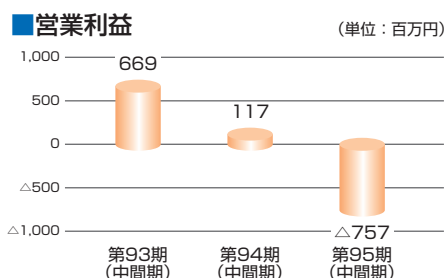
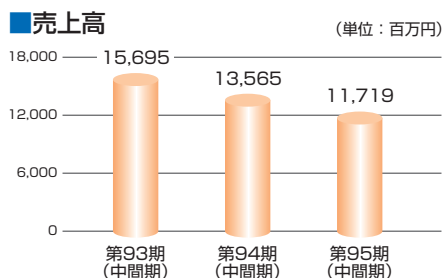


### 工作機械事業（大型機、門形機、横中ぐり盤、立旋盤、精密加工機など）

工作機械は、当社が得意とする大型機の国内外需要は一部に受注の動きが見え始めたものの、総じて軟調に推移いたしました。販売は、北米、韓国の機械部品加工向けは増加したものの、それ以外の地域で減少いたしました。受注は、有望市場として注力する自動車・航空機向けへの移行の成果が見え始めているものの、北米のエネルギー向け設備投資や鉱山機械向けの需要低迷が継続し、軟調に推移いたしました。

精密加工機は、アジア向けの中小型ディスプレイ金型加工の需要減少や、国内レンズ金型加工の一時的な需要停滞を受けて、販売は減少いたしました。受注は、国内の自動車用光学部品金型やオリンピックを見据えたカメラおよび交換レンズ用金型加工、中国のスマートフォン金型向けの需要増加を受けて、堅調に推移いたしました。

この結果、工作機械事業全体の売上高は、117億1千9百万円（前年同期比13.6%減）、営業損失は、7億5千7百万円（前年同期は営業利益1億1千7百万円）となりました。

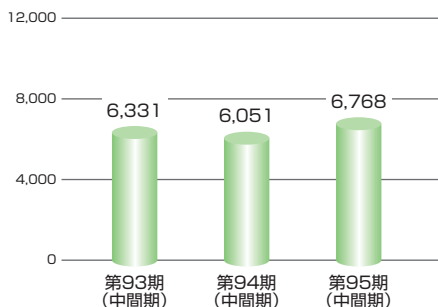


## その他の事業（産業用ロボット、電子制御装置など）

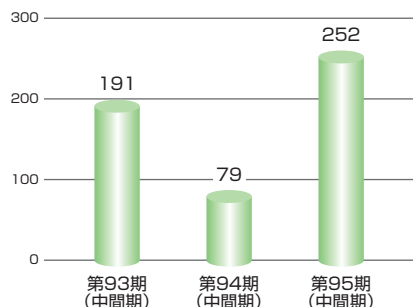
産業用ロボットは、国内の自動車等の自動化関連設備や、東アジアを中心とした電子デバイス・スマートフォン等の組立自動化設備向けに、販売と受注が堅調に推移いたしました。

この結果、その他の事業全体の売上高は67億6千8百万円（前年同期比11.9%増）、営業利益は、2億5千2百万円（前年同期比216.0%増）となりました。

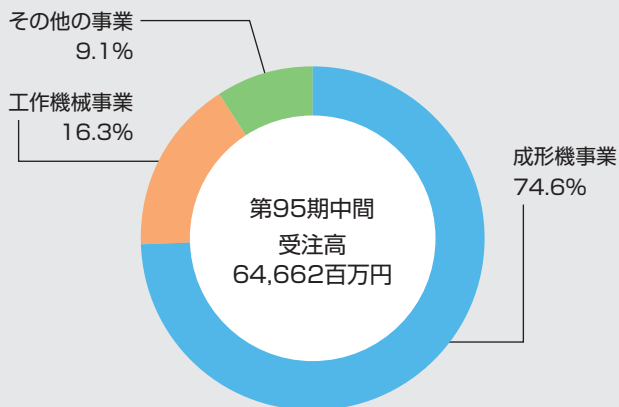
■売上高 (単位：百万円)



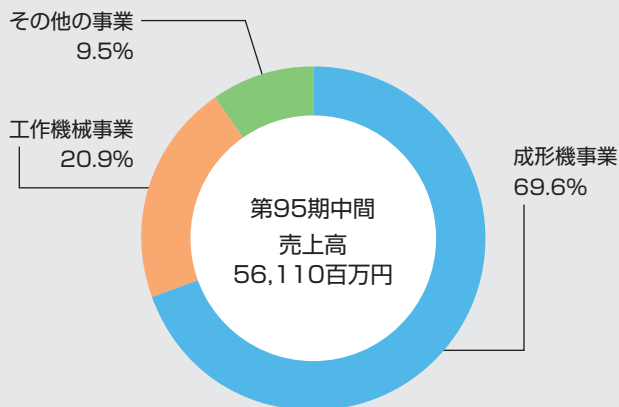
■営業利益 (単位：百万円)



事業別受注高構成比率



事業別売上高構成比率



# 連結財務諸表

## 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第95期中間期 (平成29年9月30日現在)	第94期 (平成29年3月31日現在)	科 目	第95期中間期 (平成29年9月30日現在)	第94期 (平成29年3月31日現在)
<b>資 産 の 部</b>			<b>負 債 の 部</b>		
流 動 資 産	107,894	101,615	流 動 負 債	56,327	47,481
現金及び預金	33,769	29,914	支払手形及び買掛金	28,334	26,097
受取手形及び売掛金	36,715	39,444	短期借入金	14,640	10,590
有価証券	291	146	未払法人税等	804	573
商品及び製品	6,515	6,529	未払費用	5,051	4,785
仕掛品	24,750	20,100	製品保証引当金	560	530
原材料及び貯蔵品	74	82	その他の流動負債	6,935	4,904
繰延税金資産	2,936	2,772	<b>固 定 負 債</b>	<b>11,948</b>	<b>15,929</b>
その他の流動資産	3,036	2,823	長期借入金	—	4,300
貸倒引当金	△ 195	△ 197	長期未払金	5	5
<b>固 定 資 産</b>	<b>40,572</b>	<b>38,915</b>	繰延税金負債	2,509	2,275
<b>有 形 固 定 資 産</b>	<b>21,683</b>	<b>21,125</b>	役員退職慰労引当金	25	29
建物及び構築物	12,148	9,377	退職給付に係る負債	9,303	9,244
機械装置及び運搬具	2,263	2,200	資産除去債務	49	49
土地	6,453	6,439	その他の固定負債	53	25
リース資産	76	46	<b>負 債 合 計</b>	<b>68,275</b>	<b>63,410</b>
建設仮勘定	99	2,603	<b>純資産の部</b>		
その他の有形固定資産	642	458	<b>株 主 資 本</b>	<b>75,804</b>	<b>73,722</b>
<b>無 形 固 定 資 産</b>	<b>816</b>	<b>749</b>	資 本 金	12,484	12,484
その他の無形固定資産	816	749	資 本 剰 余 金	11,538	19,600
<b>投 資 其 他 の 資 産</b>	<b>18,073</b>	<b>17,039</b>	利 益 剰 余 金	68,150	67,534
投資有価証券	17,354	16,346	自 己 株 式	△ 16,368	△ 25,898
長期貸付金	21	23	<b>そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額</b>	<b>4,387</b>	<b>3,397</b>
繰延税金資産	93	87	その他有価証券評価差額金	3,751	3,210
その他の投資	691	687	繰延ヘッジ損益	—	1
貸倒引当金	△ 87	△ 104	為替換算調整勘定	1,951	1,600
			退職給付に係る調整累計額	△ 1,315	△ 1,415
<b>資 産 合 計</b>	<b>148,467</b>	<b>140,530</b>	<b>純 資 産 合 計</b>	<b>80,191</b>	<b>77,120</b>
			<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>148,467</b>	<b>140,530</b>

## 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第95期中間期	第94期中間期
	(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)	(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)
売 上 高	56,110	50,836
売 上 原 価	40,066	36,295
売 上 総 利 益	16,043	14,540
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	14,280	13,111
営 業 利 益	1,762	1,429
営 業 外 収 益	2,368	1,138
営 業 外 費 用	283	661
経 常 利 益	3,847	1,907
特 別 利 益	8	4
特 別 損 失	9	2
税金等調整前四半期純利益	3,846	1,909
法人税、住民税及び事業税	1,200	348
法人税等調整額	△ 161	177
四 半 期 純 利 益	2,807	1,382
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,807	1,382

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	第95期中間期	第94期中間期
	(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)	(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,434	8,759
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,704	△ 767
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 988	△ 1,853
現金及び現金同等物に係る換算差額	260	△ 1,351
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,001	4,786
現金及び現金同等物の期首残高	30,060	42,932
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	△ 406
現金及び現金同等物の四半期末残高	34,061	47,312

## 連結財務諸表のポイント

### 資 産

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ79億3千7百万円増加し、1,484億6千7百万円となりました。増加の主な内訳は、受取手形及び売掛金が27億2千9百万円減少したものの、現金及び預金が38億5千5百万円、仕掛品が46億5千万円増加したこと等によります。

### 負 債

負債は、前連結会計年度末に比べ48億6千5百万円増加し、682億7千5百万円となりました。増加の主な内訳は、支払手形及び買掛金が22億3千7百万円増加したこと等によります。

### 純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べ30億7千1百万円増加し、801億9千1百万円となりました。増加の主な内訳は、利益剰余金が6億1千6百万円増加したこと等によります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は54.0%となりました。

### キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末に比べ40億1百万円増加し、340億6千1百万円となりました。なお、当第2四半期連結累計期間における各活動によるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金は、64億3千4百万円の増加になりました。これは主として、売上債権の減少27億2千8百万円、仕入債務の増加23億6千4百万円、解約金の受取額13億9百万円等の収入があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金は、17億4百万円の減少になりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出15億6千8百万円等があったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金は、9億8千8百万円の減少になりました。これは主として、長期借入金の返済額2億5千万円、配当金の支払額7億2千4百万円等があったことによります。

## ■新型電動式射出成形機EC-SXⅢシリーズを開発（新素材成形対応・拡張機能向上で高付加価値成形に貢献する世界標準機）

当社は、ご好評をいただいている電動式射出成形機ECシリーズの最新機種として、このたびインダストリー4.0への対応を見据えて各種機能を強化した、EC-SXⅢシリーズを開発し、市場に投入いたしました。

### <主な特長>

#### ・高付加価値成形（特殊成形対応・高生産性の実現）

軽量化成形、多材・多色成形等の成形技術を当社ノウハウで最適化し、「モジュール化オプション」の充実により、お客様の高付加価値成形に貢献します。

#### ・工場とつながる成形機

射出成形機と周辺機器の接続機能を充実し、成形機から機能の一元設定・モニターを可能としました。成形条件と周辺機器設定を一括管理し、設定ミスの防止と省人化に貢献します。

#### ・使いやすさを向上

SXⅢ向けに新型コントローラ「INJECTVISOR-V70」を開発、「視認性」「操作性」「設定自由度」の向上で、お客様の生産性向上に貢献します。

本製品は2017年10月24日（火）から28日（土）まで幕張メッセで開催された『IPF Japan 2017』に初出展し、多くのお客様から高評価をいただきました。

詳しくは、当社ホームページ（<http://www.toshiba-machine.co.jp/jp/NEWS/press/20171020.html>）をご覧ください。



電動式射出成形機「EC-650SXⅢ」

## ■日刊工業新聞社主催 第47回機械工業デザイン賞 審査委員会特別賞受賞

当社の「横形マシニングセンタBMシリーズ」が、このたび日刊工業新聞社主催「第47回機械工業デザイン賞」にて、「審査委員会特別賞」を受賞しました。

本賞は主に生産財を対象として、外観、機能、性能、色彩など様々な要素を総合的に判断して評価されるものです。

今回の受賞は、BMシリーズにおいて主軸頭以外の機械構成要素を共通化し、多様化するニーズに主軸頭バリエーションで対応したことで、工作機械の開発期間短縮とコストダウン策を提示した点が評価されました。

当社は、今後開発される機械でも、多様化するユーザニーズに対応する製品づくりに取り組んでまいります。

詳しくは、当社ホームページ（[http://www.toshiba-machine.co.jp/jp/NEWS/technology/2017\\_0729.html](http://www.toshiba-machine.co.jp/jp/NEWS/technology/2017_0729.html)）をご覧ください。



横形マシニングセンタ「BM-U1250」



贈賞式の様子



## ■MECT2017メカトロテックジャパンに出展

2017年10月18日（水）から21日（土）までの4日間、ポートメッセ名古屋にてメカトロテックジャパン（MECT2017）が開催されました。

本展示会は、日本国際工作機械見本市（JIMTOF）に次ぐ、国内最大級の工作機械見本市で、今年で通算16回目を迎えました。

当社は、主催者の企画コンセプトである『宇宙に求められる加工技術』に準じ、需要が見込める航空宇宙・自動車・半導体分野に“先端技術”と“IoT+m”で顧客価値を創造する工作機械・装置を紹介しました。

当社工作機械事業部は、門形マシニングセンタ（MPF-2614FS）による航空宇宙部品の高効率加工の紹介およびFSW（摩擦攪拌接合）を実演し、制御システム事業部との共同では“IoT+m”を紹介しました。また、技術・品質本部による3D金属積層装置のサンプル展示を行ないました。

展示会場と御殿場テクニカルセンターを結んだ中継シーンでは、多くの方が足を止め、熱心に聴き入る様子が印象深く、航空宇宙・自動車産業の盛んな中部地区における最先端技術への関心度の高さがうかがえました。

4日間の総来場者数は92,305名（内海外来場者1,492名）にのぼり、当社ブースにも多くのお客様にご来場いただき、盛況のうちに終えることができました。本展示会でいただいた多くの引合いを今後の受注へと繋げてまいります。



MECT2017会場風景

## ■IPF Japan 2017国際プラスチックフェアに出展

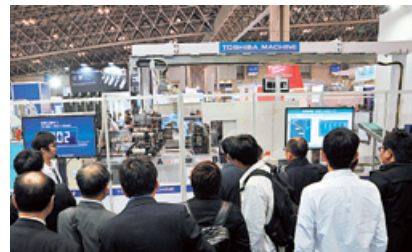
2017年10月24日（火）から28日（土）までの5日間、幕張メッセにて第9回国際プラスチックフェア（IPF Japan 2017）が開催されました。

本展示会は、プラスチック・ゴムに関する原材料・機械・製品・リサイクル機器・受託加工などが出展されるアジア最大級のプラスチック・ゴム総合見本市です。

当社は、「最先端技術・システムエンジニアリング・IoTでつながるモノづくり～Revolution in molding～」をテーマとして、IoTの活用による「見える化」で生産性向上、作業性向上、操作性向上、稼働率向上を提案しました。

今回、次世代自動車向けの最先端技術（軽量化・工程集約・新素材・加飾）を適用した高付加価値製品を自動車業界向けにPRしました。また、金型・材料をキーワードとする次世代技術および当社製品群の技術をコラボレーション展示し、当社の総合力をアピールしました。

期間中の総来場者数は43,676名（内海外来場者3,566名）にのぼり、当社ブースにも海外も含め多くのお客様がご来場され、多数の引合い、成約をいただくことができ、盛況のうちに終えることができました。



IPF Japan 2017会場風景

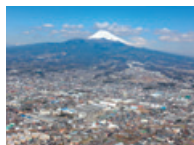
## ■株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、インターネットでのアンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします（裏表紙ご参照）。

# グローバルネットワーク (平成29年9月30日現在)

## 国内拠点

- |        |             |
|--------|-------------|
| ● 本社   | 沼津          |
| ● 製造拠点 | 沼津、相模、御殿場   |
| ● 販売拠点 |             |
| ● 本店   | 東京          |
| ● 支店   | 東北、中部、関西、九州 |
| ● 営業所  | 高崎、浜松、広島、尾道 |



沼津工場（本社）



相模工場



御殿場工場

## 海外拠点

- |          |                  |           |
|----------|------------------|-----------|
| ● 製造拠点   | ● 工場             | 上海、インド、タイ |
| ● 販売拠点   | 全46拠点            |           |
| ● 東アジア   | 10拠点             |           |
| ● 東南アジア  | 28拠点 (インド21拠点含む) |           |
| ● 北米・中南米 | 7拠点              |           |
| ● 欧州     | 1拠点              |           |

### ● 東アジア統括

SHANGHAI  
TOSHIBA MACHINE CO., LTD.

### ● 上海工場

TOSHIBA MACHINE  
(SHANGHAI) CO., LTD.



### ● インド工場

TOSHIBA MACHINE  
(CHENNAI) PRIVATE LIMITED



### ● 東南アジア統括

TOSHIBA MACHINE  
(THAILAND) CO., LTD.

### ● 欧米統括

TOSHIBA MACHINE  
COMPANY, AMERICA



### ● タイ工場

TOSHIBA MACHINE MANUFACTURING  
(THAILAND) CO., LTD.



# 会社の概況／株式の状況 (平成29年9月30日現在)

## 会社の概況

- ① 所在地  
東京都千代田区内幸町2丁目2番2号
- ② 創業  
1938年(昭和13年)12月
- ③ 設立  
1949年(昭和24年)3月
- ④ 資本金  
124億8千4百万円
- ⑤ 従業員数  
連結：3,281名(前期末比45名増)  
単独：1,812名(前期末比25名増)
- ⑥ 役員(平成29年12月1日現在)

代表取締役会長 最高経営責任者	飯村幸生
代表取締役社長 社長執行役員 最高執行責任者	三上高弘
代表取締役 専務執行役員	坂元繁友
取締役 専務執行役員	八木正幸
取締役 常務執行役員	伊東克雄
取締役 執行役員	小林昭美
取締役 執行役員	小池純
社外取締役	秋山寛弘
社外取締役	小倉良潔
社外取締役	佐藤輝幸
常勤監査役	牧野輝幸
常勤監査役	辻眞豊
監査役	宇佐美豊

(注) 常勤監査役 牧野輝幸氏、監査役 宇佐美豊氏は社外監査役であります。

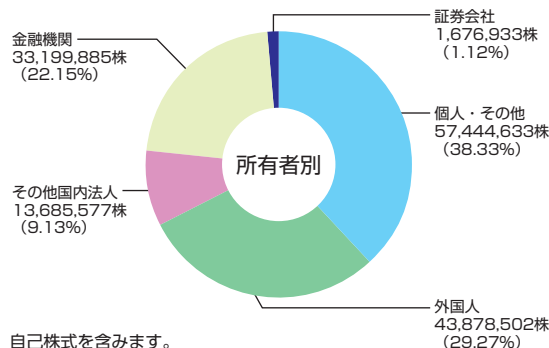
## 株式の状況

- (1) 発行可能株式総数 360,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 149,885,530株  
(自己株式29,197,927株含む)
- (3) 株主数 8,771名  
(前期末比920名減)
- (4) 大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	7,280千株	6.03%
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	5,215	4.32
角田博	3,900	3.23
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	3,852	3.19
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	3,674	3.04
株式会社サミット経済研究所	3,590	2.98
株式会社東芝	3,338	2.77
株式会社静岡銀行	2,980	2.47
BBH/ROBO-STOXTM GLOBAL ROBOTICS AND AUTOMATION INDEX ETF	2,701	2.24
株式会社三井住友銀行	2,682	2.22

- (注) 1. 当社は、自己株式を29,197,927株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## (5) 株式の分布状況



# 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会については3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める日
期末配当基準日	毎年3月31日
中間配当基準日	毎年9月30日
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行なっております。

- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払について  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。



# 個人投資家向けHPのご案内



個人投資家の皆さまに当社へのご理解を深めていただくためのページをご用意しております。ご高覧の上、下記のアンケートにてご感想、掲載内容へのご意見等いただければ幸いです。

<http://www.toshiba-machine.co.jp/jp/ir/private/index.html>

## 株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード **6104**

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から  
抽選で薄謝(図書カード500円)  
を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
(株式会社 a2mediaについての詳細<http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)  
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com